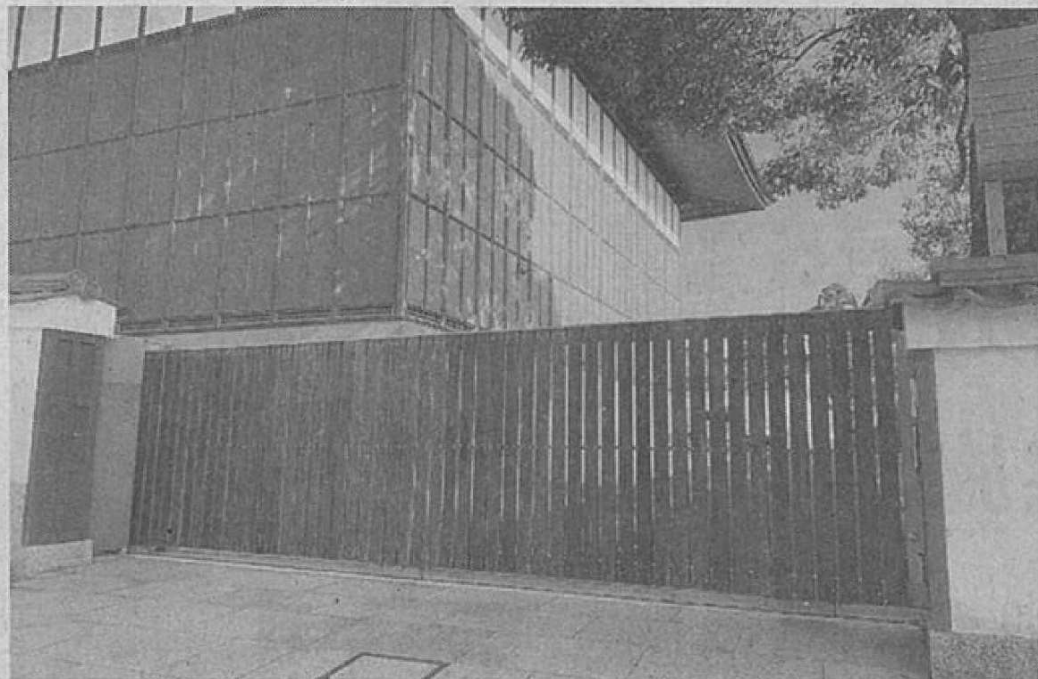


応緑（兵庫県姫路市、河越祥郎社長）は、2023年3月までに木製の引き戸門扉（スライド式ゲート）を製品化する。従来のアルミニウム製やスチール製に比べて製造時に二酸化炭素（CO₂）排出が抑制されるのが特徴で、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ）に対応した門扉として開発する。24年3月までに受注を始める計画。

同社は学校や企業などの出入り口に使われる大型の門扉を手がけている。開発を進める木製門扉では、車輪など一部部品を除いたゲートの主要

カーボンニュートラル対応

応緑、木製引き戸門扉開発へ



構成材料を木材で製造する。使用する木材には二ツコー（東京都杉並区）が開発した液体ガラスを浸透させ、

防腐や防火、耐久性を確保する。カーボンニュートラルに関する企業や、

電動ゲートとする場合は、太陽光発電と組

木製の横引きゲートのイメージ（写真はスチール製のゲートに木材を貼っている製品）

（姫路）